

マイクロプラスチックを巡る現状と今後の展望

一般社団法人 大阪工研協会
ニューフロンティア材料部会
後援 (地独)大阪産業技術研究所

ご 案 内

マイクロプラスチックは海洋汚染物質として近年注目されるようになり、その影響の調査が進められています。プラスチックに起因する環境汚染の防止は、国際連合がまとめた持続可能な開発目標(SDGs)のうち、「12 つくる責任 つかう責任」「14 海の豊かさを守ろう」の点からも、グローバルに達成すべき課題となったといえるでしょう。プラスチックは、軽くて成形が容易、硬軟が設計可能などの優れた特性を持つ、品質が安定している、安価であるなどの特性から世界中で多く使われて来ました。人類がその恩恵をこれからも享受していくためには、マイクロプラスチックの現状を踏まえての、今後の新しい材料や製品の開発が求められています。今回の例会では、環境中に放出されたプラスチックの挙動、マイクロプラスチックの分析法、生分解評価法のISO国際標準化動向等について第一線の先生方に話題提供いただきます。新製品・新技術紹介では、さまざまな生分解性プラスチックや、プラスチック容器包装に関する環境対応についてメーカー様からご紹介を頂きます。参加者相互の情報交換のための名刺交換の時間を設定しております。実施に際しては新型コロナウイルス感染症防止に取り組みますので、ご協力をお願いいたします。

◎ **と き** 令和3年7月13日(火) 13:00より

◎ **と ころ** KKRホテル大阪 (大阪市中央区馬場町2番24号) TEL:06-6941-1122
<交通> JR大阪環状線森ノ宮駅および大阪メトロ中央線森ノ宮駅下車①番出口より西へ徒歩7分
大阪メトロ谷町線谷町4丁目駅下車⑨番出口より東へ徒歩7分

プログラム

◎ 話題提供

- 1. 都市水循環系におけるマイクロプラスチックの挙動とナノプラスチックへの挑戦** (13:00~14:10)
(スピーカー) 京都大学 地球環境学堂 准教授 **田中周平氏**
(コーディネーター) 園田学園女子大学 副学長 **中野博文氏**
環境中に放出されたプラスチックはどうなるのか?をテーマに掲げ、6年前からマイクロプラスチックに関する研究を進めている。本報告では、それらの写真を紹介し、日に見えない大きさにまで微小化したプラスチック片が環境中に残存している様子を紹介する。特に琵琶湖を対象とした都市水循環系における挙動に着目し、それらの知見をまとめて紹介するとともに、洗濯排水や路面での劣化に関する研究事例について詳述する。また、さらに微小なナノプラスチック分析についての取り組み状況についても紹介する。
- 2. マイクロプラスチックやその生分解のISO国際標準化動向** (14:10~15:20)
(スピーカー) (国研)産業技術研究所 標準化推進センター 標準化オフィサー **国岡正雄氏**
(コーディネーター) レンゴー(株) 田嶋宏邦氏
マイクロプラスチックの定義、分析法のISO国際標準化が始まった。ISOのTC61専門委員会「プラスチック」とTC146「水質」で審議が始まった。マイクロプラスチック限定ではないが、プラスチックの生分解評価法は、多くの環境中(土壌、コンポスト、メタン発酵液、活性汚泥、海水等)で制定されている。本講演では、これらのISO標準化動向を説明する。

◎ 新技術・新製品紹介

① **カネカ生分解性ポリマー—Green Planetのご紹介** (15:30~16:00)
(株)カネカ Green Planet 推進部 Green Planet Global Planning & Marketing グループ **福田竜司氏**
海洋プラスチックごみ問題への関心の高まる中、生分解性ポリマーへの期待が高まっている。カネカ生分解性ポリマー—Green Planet (PHBH) は植物油を原料として微生物が産生する100%バイオマス由来のポリマーです。土中、海水中、嫌気環境などさまざまな環境下で良好な生分解性を示します。講演では、PHBHの特徴について紹介いたします。

② **バイオマス素材「テラマック®」の展開** (16:00~16:30)
(株)ユニチカ(株) サステナブル推進室 テラマック推進グループ **岡本昌司氏**
昨今バイオマスプラスチックへの関心がますます高まっておりますが、当社では25年以上前からバイオマスプラスチックの研究開発に取り組み、現在はポリ乳酸(PLA)を用いたバイオマス素材「テラマック®」において繊維、不織布、樹脂で事業展開しています。今回は最近の「テラマック®」の活用事例についてご紹介いたします。

③ **環境に優しい植物由来の生分解性ポリマー—酢酸セルロース** (16:30~17:00)
(株)ダイセル マテリアルSBU アセチルBU **奥村浩一氏**
酢酸セルロースは、植物由来のセルロースと自然界に存在する酢酸を原料とする天然由来プラスチックである。土壌や廃棄物中だけでなく、海洋中でも生分解性が確認されており、最終的に水と二酸化炭素に分解されるため、特に海洋プラスチックごみ問題への貢献が期待される。強度や透明性といった特性を生かして、幅広い用途で展開を目指す。

④ **花王のプラスチック容器包装 環境対応への取り組み** (17:00~17:30)
(株)花王(株) 包装技術研究所 **松本州平氏**
2019年に花王が発表したESG戦略「Kirei Lifestyle Plan」について触れながら、花王がこれまでに実施してきた4R(Reduce, Reuse, Recycle, Replace)活動による環境対応への取り組みを紹介すると共に、花王の環境対応の中心となるフィルムタイプの包装容器開発、および、今後の新たなチャレンジとして取り組むフィルム容器によるReduce InnovationとRecycle Innovationによる環境戦略について発表する。



定 員 60名(申込先着順) コロナ禍対策のため、参加者人数は厳守いたします。
参加費 12,000円(消費税を含む。当日受付にていただきます)
申込先 〒536-8553 大阪市城東区森之宮1-6-50 (地独)大阪産業技術研究所森之宮センター内
お問い合わせ先 一般社団法人大阪工研協会宛 TEL(06)6962-5307 FAX(06)6963-2414
E-mail: info@osakaira.com https://osakaira.com

◎参加ご希望の方は下記申込書にて令和3年7月1日(木)までにお申し込み下さい。
◎WEB(イベント情報)からの申込みも可能です。

令和3年 月 日

第111回ニューフロンティア材料部会参加申込書

会社名			
所在地	〒 連絡者) TEL: FAX: E-mail:		
参加者名	部	氏	
	署		名
	名		

お申込みいただいたお名前等の個人情報は、受講確認および今後の講習会ご案内以外の目的には使用いたしません。